

結核スクリーニング検査(IGRA)について

結核のスクリーニングとして行う IGRA(Interferon-Gamma Release Assays)とは、血液中の抗原特異的 T 細胞から産生・放出されるインターフェロンガンマ(IFN- γ)を指標とし、結核菌に感染しているか否かを診断する検査です。

T-SPOT とは検査法の一つで、血液に特異抗原を添加して刺激を行い、反応したリンパ球に対応する SPOT の数と抗原刺激を行わないコントロールの SPOT を計測し、これらの差を判定値とする検査法です。

<結果の見方> ※判定保留・陽性・判定不可の場合には、医師面接をご案内しています。

陰性

結核に感染していません。

(感染直後や経過の長い感染、治療中の感染の場合、感染していても陰性になることがあります。)

判定保留

結核感染の可能性が否定できません。

陽性

結核感染が強く疑われます。

判定不可

リンパ球の反応性などで検査ができない状態です。

Q IGRA 検査の予定されている時期に予防接種が予定されていますが、予防接種は IGRA 検査に影響はありますか？

A 予防接種が IGRA 検査に及ぼす影響についてはいまだに十分調べられていません。しかし、ツベルクリン反応への影響から推測して、ある種の予防接種によっては細胞性免疫に影響する可能性も否定できませんので、念のため予防接種は IGRA 検査後にされることを推奨します。

(参考)

日本環境感染学会 結核の感染予防

慶應義塾大学保健管理センター 医療系学部実習前感染症対策ハンドブック



結核の感染予防



実習前ハンドブック

検査結果は大切に保管しましょう